

あしぎん香港レポート

2018年2月号

- 【調査レポート】中国の経済動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 【トピックス】香港の飲食店業界・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 【アセアンレポート】タイの不動産制度・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 【香港コラム】街市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

足利銀行香港駐在員事務所
SUITE 1601, 16/F, TOWER2, THE GATEWAY,
HARBOUR CITY, TSIM SHA TSUI, KOWLOON,
HONG KONG
TEL:+852-2251-9475
FAX:+852-2251-9476

本レポートの内容につきましては、弊行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談下さいますようお願い致します。

【調査レポート】

－中国の経済動向－

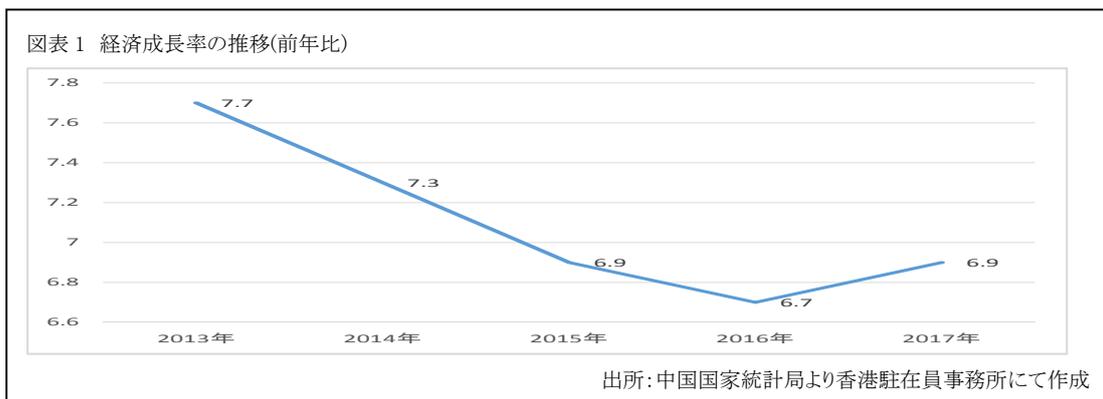
1. はじめに

中国は、2010年に自国の国内総生産(GDP)が日本を抜いて世界第2位の地位に躍り出てから7年が経ち、経済大国として成長を遂げてきました。ここ数年は、経済成長の鈍化・減速を指摘する声が多く聞かれていたものの、直近2017年の実質GDPの伸び率(経済成長率)は、7年ぶりに前年を上回る結果となりました。

そこで本稿では、経済規模が大きく、世界経済への影響が大きい中国の経済動向について、様々な指標をもとに、その動向を確認していきます。

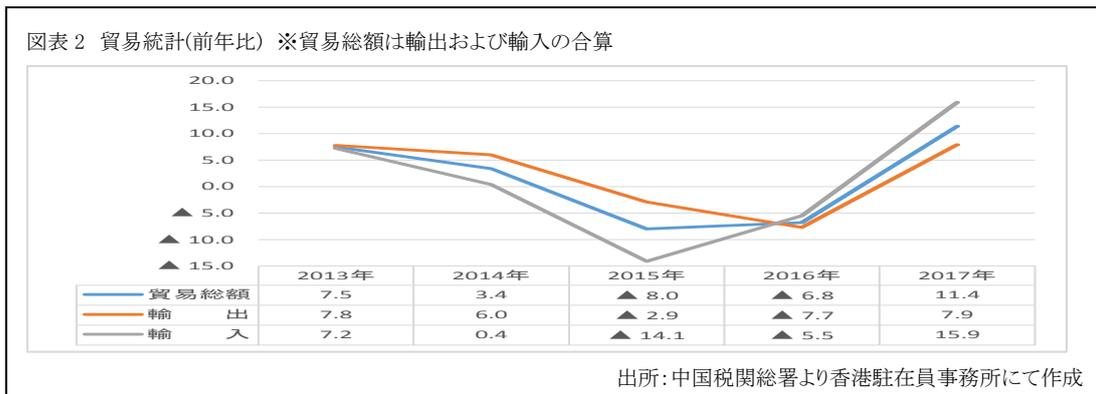
2. 中国経済の動向

まずは、中国経済の動向を一番体現している、実質GDPの伸び率(経済成長率)を確認します。(図表1)



ここ数年においては、2014年から2016年まで3年連続で微減となっていました。2017年は6.9%を記録し、政府目標であった「6.5%前後」を達成すると共に、前年超えの成長を記録しました。経済成長率が前年を上回った要因としては主に、共産党大会(5年に1度の頻度で開催。前回開催は2017年10月)の開催前に拡大した鉄道や道路等の交通網整備を中心としたインフラ投資や世界経済の好転を原因とした輸出の増加が挙げられます。

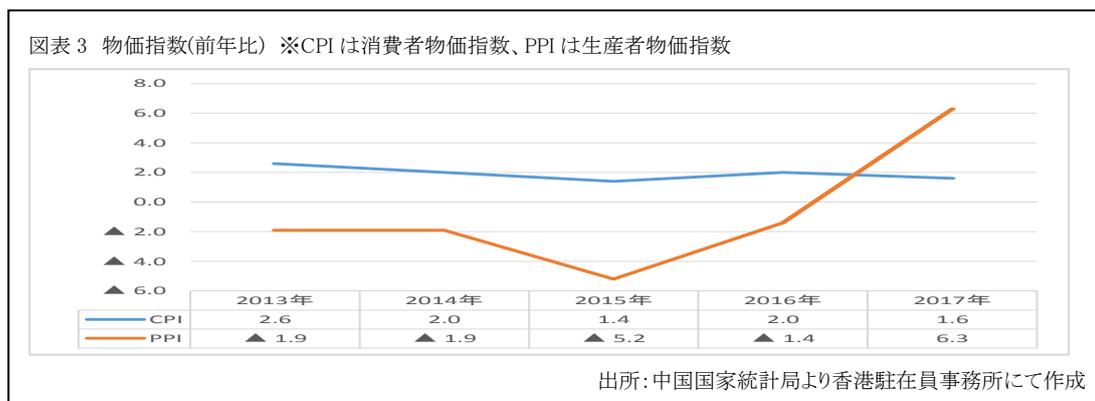
中国単体で経済成長率の推移を見ると、図表1の通り、近年は減少傾向が続き、今後の先行きに不安が持たれていました。しかしながら、他国との比較を行うと、GDP世界1位の米国および3位の日本においては、同様の期間、経済成長率が0~2%前後の範囲で推移していたことから、中国が安定した経済成長を遂げていた状況が確認できます。また仮に、中国が現状のような経済成長率の推移を辿った場合、2030年頃には中国が米国を抜いてGDP世界1位になると言われており、今後も安定した経済成長が期待されています。



次に、経済成長率が伸びた要因にも挙げた、輸出を含む貿易の状況を確認します。(図表2)
 2017年は、輸出が7.9%増、輸入が15.9%増を記録し、貿易総額は11.4%増の約460兆円を記録し、3年ぶりに前年を上回りました。また貿易収支は、47兆円の黒字となりました。

貿易相手を国・地域別で見ると、最大の貿易相手国である米国とは、貿易総額は12.3%増となり、輸出は11.5%増、輸入は14.5%増と全ての項目において、前年比2桁増を記録しました。また、米国に次ぐ貿易相手国である日本とは、貿易総額は10.1%増となり、輸出は6.1%増、輸入は13.7%増と、こちらも堅調に推移しました。

最後に、物価指数について確認していきます。(図表3)



消費者物価指数は、政府目標である「3%前後」を下回り、前年比1.6%の上昇となりました。直近の5年間は、2%前後の上昇と安定的に推移しており、2017年も同様の推移となりました。また、企業需要を反映している生産者物価指数については、前年比6.3%の上昇と6年ぶりのプラス回復となりました。

3. まとめ

2017年の中国経済は、様々な項目において成長・回復が見られました。しかしながら、2017年の経済成長率は、インフラ投資の拡大が寄与した部分もあり、今後も持続した経済成長が果たせるか、その動向を確認していく必要があります。

今後も香港駐在員事務所では、当地情報の収集や提供、当地におけるサポート活動を行って

参りますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

【トピックス】

—香港の飲食店業界—

1. 香港の飲食店業界の概況

香港市民は外食する頻度が高く、世帯の可処分所得に占める消費支出のうち食費が30%弱を占めるなど、「食」を大切にする文化があります。また2017年3月時点において、香港内で登録されている飲食店数は約16,700軒(前年同月:約16,500軒)あり、飲食店従事者は24.3万人(前年同月:24.1万人)、飲食店での売上高は548億香港ドル(前年同期:525億香港ドル)と、いずれも前年同月と比べ、増加傾向にあり、香港の飲食店業界は拡大傾向にあります。

2. 香港に飲食店事業を展開する際のメリット・デメリット

香港に飲食店事業を展開する際のメリットとしては、優れた投資環境と進出の容易さが挙げられます。金融などの一部の業種を除き、進出にかかる制限はありません。税制も非常にシンプルで、企業所得税率はアジアで最も低い16.5%となっております。日本との間では日港租税条約も締結されているため二重課税への懸念もなく、法制度も国際基準に則っており、事業環境としては優れた状況であると言えます。また、中国や海外市場への展開を見据えたテスト地域としての魅力もあります。実際に、当行取引先が香港で実績を積み、パートナーを得た上で、近隣諸国への本格参入を果たした事例もあります。また、高い日本食の人気の飲食店の進出を後押ししています。

一方、デメリットとしては、世界で最も高水準である店舗賃料が挙げられます。香港では、3年毎の賃貸契約が一般的であり、契約更新時に賃料の値上げを通告されることが多く、飲食店にとって賃料引き上げによるコスト増加は大きな障害となっています。また、転職市場が整っていることから、人の入れ替わりも多く、人材確保のために賃上げを実施せざるを得ないケースも多々あり、運営コストの上昇要因となっています。

3. ライセンス取得について

全てのライセンスは食物環境衛生署が発行元となり、通常は発行まで2ヵ月前後の時間を要します。業務内容により取得する条件が異なりますが、例えばアルコール飲料を提供・販売する場合は、酒類販売当局でのリカーライセンス取得が必要となり、取得まで3ヵ月前後の時間を要します。

4. まとめ

香港は各国料理店がひしめく食の激戦区です。店舗賃料の高騰に耐え切れず撤退を余儀なく

されることもあります。しかし、1,000 軒以上の日本料理店があるなど日本食への香港市民の支持は非常に高く、魅力的なマーケットであることに変わりはありません。綿密な事業計画の策定や事業環境の調査をし、経営リスクを踏まえた上で、チャレンジする市場に値すると考えます。

【アセアンレポート】

－タイの不動産制度－

1. はじめに

企業が海外に進出する際には、土地や建物など不動産の調達が必要となります。タイにおける不動産制度には日本とは異なる点が多くあり、外国人に対する規制も存在します。海外において不動産の購入や賃借を行う際には、思わぬトラブルや損害を回避するため、進出先の法制度を十分理解して慎重に行う必要があります。今回は、タイの不動産における諸制度についてレポートします。

2. 土地法による外国人の定義

土地法による外国人は、タイ国籍を有していない個人の他に次の法人となります。

- ①外国人が登録資本金の 49%超を保有する法人
- ②外国人が全株主の過半数を占める法人

3. 土地・建物の所有

タイでは、土地法による規制により、外国人がタイ国内の土地を所有することは認められていません。ただし、一定の要件をクリアし、当局より投資奨励企業と認められた場合等においては、土地所有が認められる場合があります。

一方、タイにおいては外国人の建物所有に関する法規制は存在しないため、外国人が建物を所有することは問題ないものと解釈されています。なお、コンドミニアムについても部屋単位での区分所有が原則認められています。

4. 土地・建物の賃借

外国人の土地や建物の賃借に関する法規制はないため、外国人についても自由に土地や建物を賃借することができるものと解釈されています。

5. まとめ

今回は、タイの不動産制度についてレポートしました。当行は、昨年 12 月にバンコク駐在員事務所を開設し、今まで以上にきめ細やかなサービスを提供できる体制となりました。今後も皆様のお役に立てるご支援を行ってまいりますので、ご相談の際にはお気軽にお問い合わせください。

【ニュース一覧】

〈香港〉

- ・経済
 - －2017年11月の輸出、前年同月比7.8%増－増加は10ヶ月連続(1/4)
 - －2018年の輸出、前年比6%増の予測－HKTDC(1/8)
 - －2017年12月の日経・香港PMI、51.5に上昇(1/5)
- ・金融
 - －2017年の新規株式公開、件数は増加するものの、資金調達額は34%減(1/9)
- ・不動産
 - －香港の駐在員家賃、5年連続アジア最高(1/18)
- ・その他
 - －2017年11月の香港への旅客数、前年同月比7.0%増(1/4)
 - －2017年の新規企業登記件数、16万件超(1/9)
 - －アリペイ香港、香港電灯と支払サービスで提携(1/10)
 - －アリペイ香港、3香港と電子決済サービスで提携(1/11)
 - －2017年の訪日旅客数、過去最高の223万人(1/17)
 - －2017年のコンテナ取扱量、6年ぶりプラスの前年比4.8%増(1/17)
 - －2017年10～12月の香港失業率、2.9%に低下－過去20年で最低(1/19)

〈広東省〉

- ・経済
 - －2017年12月の広東省製造業PMI、51.8に低下(1/5)
 - －広州市、2017年のGDP35兆円超の見通し(1/12)
 - －2017年12月の広東省CPI、前年同期比1.8%上昇(1/15)
 - －2017年12月の広州市CPI、前年同期比2.7%上昇(1/16)
 - －深圳市、2017年の経済成長率は推計8.8%(1/19)
- ・その他
 - －広州市の新築住宅成約件数、前年比34%減(1/5)
 - －広州市、PM2.5削減の年間目標を達成(1/9)
 - －深圳市の新築住宅価格、15ヶ月連続でほぼ横ばい(1/10)
 - －BYD、中国初の無人運転モノレールシステムを公開(1/12)
 - －広東省の大卒初任給、平均は63,000円－前年比8.6%上昇(1/12)

【香港コラム】

(出所:各種新聞報道等)

－街市－

美食の都と称される香港の一般家庭において、普段の食卓に並ぶ食材は、「街市」(ガイシー)で購入することが多いです。本コラムでは、「街市」をご紹介します。

1. 街市について

街市とは、香港内各地に多数ある生鮮食料品の小売り市場の総称です。街市の構造は、1階が肉や水産物、2階が野菜、果物、生活雑貨、3階がフードコートとなっているのが一般的です。

街市という名前の由来は、昔の市場は街の両サイドに設けられていたことにあります。近年では、衛生面の維持を目的とし、政府管理下のビルに集中されています。現在、香港内には100ヵ所以上の街市があります。

2. 街市の特徴と魅力

街市の特徴と魅力は以下の通りです。

- ①買う方も売る方も活気がある …店員はその道のプロ。積極的に話してみましよう。
- ②量り売り …家族構成に合わせて必要な分だけ。
- ③安値 …通常のスーパーに比べ、半値で売られていることも！
- ④値段交渉可能 …表示価格は参考程度。まとめ買いで値引き交渉を！
- ⑤新鮮 …毎朝仕入れ、その日に売り切りが基本。
- ⑥人情深い …顔なじみになると、店員から値引き提案も！
- ⑦野菜購入で、ねぎをサービス …おまけを忘れずに！

以上、香港にお越しの際は、香港市民の台所である「街市」にお立ち寄りいただき、活気ある雰囲気を感じていただくことも一興かと思います。旅行期間中に、野菜等を買うことは中々出来ないかもしれませんが、香港には東南アジアのフルーツもたくさん売られていますので、滞在期間中に食すものとして、香港市民に成り切った買い物をお楽しみいただけるのではないのでしょうか。

